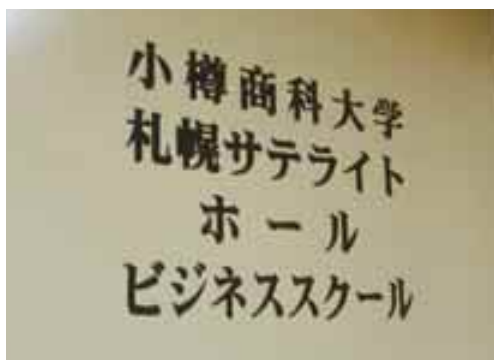


小樽商科大学ビジネススクール（専門職大学院）

小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻

ビジネスの最前線で活躍する人材を教育

ビジネススクール授業内容のご紹介



小樽商科大学ビジネススクールに入学すると、まず「戦略」、「組織と人的資源管理」、「マーケティング」、「会計」、「ファイナンス」、「情報処理」、「統計」に関する授業を履修します。これら基本科目（7科目必修）と呼ばれる授業は、実践科目を受けるために必要な知識とスキルを提供するものです。実践科目では、「ケース・スタディ」と「ビジネス・プラン」が必修科目となっています。その他、発展科目をはじめとして、多くの選択科目が用意されていますが、ここでは、基本科目から「組織と人的資源管理」、総合科目から「ケース・スタディ」と「ビジネス・プラン」を紹介します。

組織と人的資源管理

担当：吉野 有助

基本科目の1つ「組織と人的資源管理」では、「企業の内部をどのようにマネジメントすべきか」という問題を、リーダーシップ、モチベーション、組織文化、チームといった「組織の視点」と、業績・報酬制度、給与制度、職務設計等の「人的資源管理の視点」から学習します。授業の流れは、前半90分で理論のレクチャー（講義）を行い、後半の90分でケース・ディスカッションを行う、というものです。レクチャーといっても、一方通行的なものではなく、ビデオによる企業事例を見たり、学生からの質問に答える形で双方向の講義を行ったりしています。ケース・ディスカッションでは、事前に読んできた企業のケース（事例）をグループ単位でディスカッションした後、グルー



プごとの発表と全体ディスカッションを行います。例えば、今年度の授業では、日産のクロス・ファンクショナル・チーム、松下電器の組織変革と組織文化、リクルート社の人事制度、鳥取三洋電機のセル生産（職務設計）等のケースを検討しました。

授業終了後、学生には、学習した理論や分析手法を使って各自が勤務する会社を分析した上で、レポートを提出することが求められます。受講生に対して行った事後アンケートによると、「会社の見方が変わった」、「ディスカッションが刺激的だった」、「仕事に役立っている」といった感想が目立ちました。この授業の特徴は、理論と実践の統合です。実際のビジネス上の問題を解決するための道具として理論を使う、というスタンスを大事にしています。

吉野 有助（よしの・ゆうすけ）講師

担当科目
「組織と人的資源管理」

1954年生まれ
本学大学院非常勤講師
学部：横浜国立大学経済学部卒
大学院：早稲田大学大学院文学研究科博士課程前期
現職：㈱東急総合研究所研究部上席主任研究員